

の火を一つ借ろう、コリヤ〜順禮の衆、其の火を借して呉れ」

「イヨー正眞の侍が来た、サアお附けなされ」

「宜い天氣ぢやのウ、我々は遠國の者で御座るが雨等に降らるゝと困るが、斯く晴天の日は格別ぢやのウ、兄弟か、西國順拜と見得るな、斯く其の火を借も何かの縁でかなあろう。袖摺れ合ふも他生の縁、躓く石も縁の端とか申すで」

種々の話をして居りますが、此方の中村と言ふ仁は其を喫めぬので、彼方此方を見て居りますと喜いさんは一生懸命に立廻りの稽古をして仕込を二三寸チョイ〜抜きます。芝居の小道具とは言ふ物の金具が張つて有るのでキラ〜と光ります。其れが侍の目につきましたので、

「コリヤ平野氏」

「ナンぢや中村氏」

「必ず粗相な事を申されな、彼れは唯の順禮では御座らんど、察する處、親兄弟、或は主君の仇を狙はるゝ方と相見得る」

「中村氏、何故で御座るか」

「御舍弟と相見得るが、竹杖には名刀が仕込んで御座る彼れを見られよ」

「成程、如何様左様ぢや、是は失禮な事を申した、ハハ何處の御藩かは存ぜねど、先般よりの無禮の

段々、御許し下され、偕は御主君の仇、親兄弟の復讐を狙わるゝ方と相見得る」

「イエ、そんな者と違ひます、ほんまの順禮だす」

「イヤ隠しあるは御最なれど、某も武士で御座る、決して他言は致しませぬ。今にも敵にお出合めされたら助太刀を致すで御座る、仔細あつて主君の名は語り申さぬが、某は平野と申して一刀流を學ぶ者、彼者は中村と申して神影流を學ぶ者、今にも敵に御出合ひめされたら、言葉の助太刀でも致すものを残念で御座る、心置きなく本望を成就られよ、武士の龜鑑で御座る」

「イエ、違ひます」

「イヤお隠しあるな、彼れ見られよ、御舍弟の竹杖に名刀が仕込んで御座る」

「エ、コレ喜いやん何をするね、阿呆やな、モン、是れは違ひますね」

「イヤ、長居をしては妨げになる、縁があれば再會致す、失禮御免、中村參ろう、斯く太平の御世にも、仇討と言ふ物が御座るかな」

侍兩人は行て仕舞ました。

「オイ喜いやん」

「なんや」

「なんややないで、しよむない事をする依つてに、今の侍が正眞の敵討と思ふて依る」